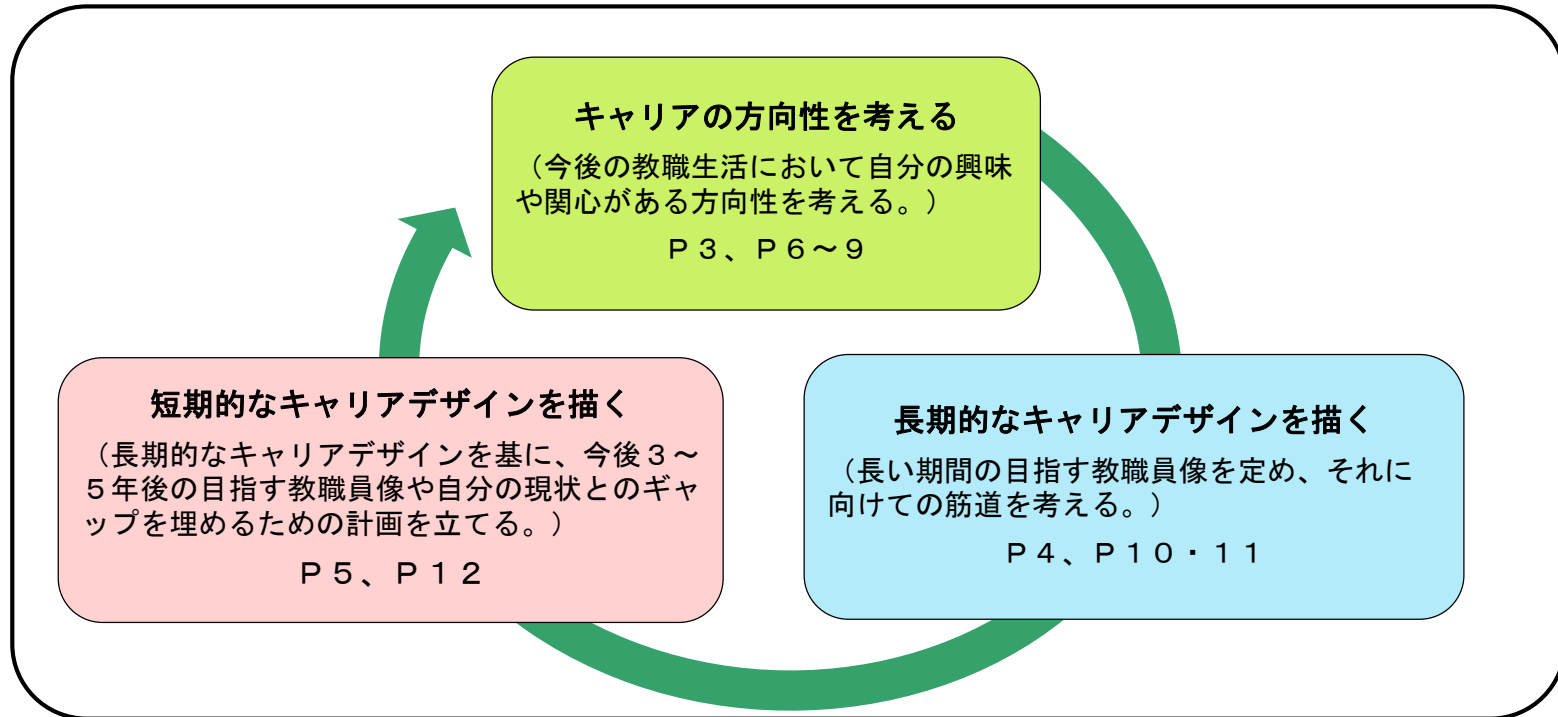


2 キャリアデザインについて理解する

(1) キャリアデザイン作成の流れ

キャリアデザインを作成する流れは次のとおりです。



短期的なキャリアデザインも「ギャップを埋めるための計画」(Plan)ができたなら、実行(Do)、点検(Check)、改善(Action)のPDCAサイクルが大切です。



(2) キャリアの方向性

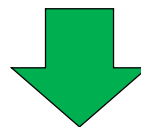
キャリアデザインを描く際には、今後の教職生活において自分の興味や関心をもとにキャリアの方向性を考える必要があります。次のような質問を考えることで、自分のキャリアの方向性を考えることができます。

【キャリアの方向性を考える3つの質問】

- 1 自分は教職員として何が得意か。(P7)
- 2 自分は教職員として何をやりたいのか。(P8)
- 3 教職員としてどのようなことをやっている自分なら、やりがいや役に立っていることを実感できるのか。(P9)

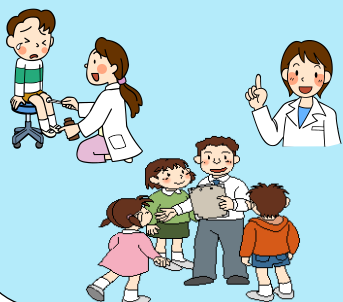


※エドガー・シャインのキャリアを考える3つの問いを基に作成

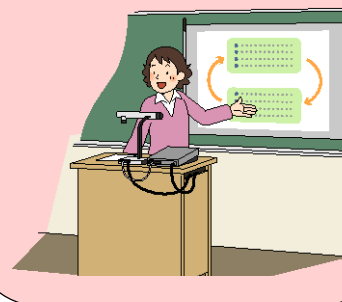


【キャリアの方向性の例】

教諭として生涯子どもに関わり続けたい。



教科指導のスペシャリストになりたい。



自分は主任等として学校に貢献したい。



自分は管理職として学校経営に当たりたい。







(3) 長期的なキャリアデザインと短期的なキャリアデザイン

① 長期的なキャリアデザイン

長期的なキャリアデザインでは、自分の教職生活における最終のゴールや10年後、20年後といった比較的長い期間の目指す教職員像を定め、それに向けての道筋を考えます。キャリアデザインを描く際は、ライフプランに応じた支援や制度を参考にすることも大事です。

(P63～65「ライフプランに応じた結婚や子育て、介護支援の制度」参照)

<長期的なキャリアデザインの例 20歳代前半で教諭に採用され、再任用までの長期的なキャリアデザインを描いた>

目指す教職員像		○ 生徒指導や学習指導において指導力を高め、生徒や保護者等の期待に応えることができる教師				
		○ 生徒や保護者、地域の願いや教職員の希望をもとに、学校経営や人材育成に力を尽くすことができる管理職				
年齢	20歳代	30歳代	40歳代	50～60歳代		
職	教諭		主幹教諭	教頭	校長	教諭
身に付けることや経験等	教科指導、生徒指導、学級経営の基本的な力を身に付け、高めていく。	教科指導等の専門性を高め、得意分野をもつ。主任等を経験し、学校運営の中心的役割を果たすようになる。	学校運営の充実につながるような企画・立案を行い、学校全体を動かすようになる。	校長を補佐し、判断力等を高める。	校長として理想とする学校をつくりあげる。	学校や地域の教育力の向上に貢献し、人材育成に当たる。
						

② 短期的なキャリアデザイン

短期的なキャリアデザインでは、長期的なキャリアデザインに基づいて、今後3～5年後の自分が目指す教職員像やそのために必要な資質・能力を明らかにするとともに、自分の現状とのギャップを埋めるための計画を立てるようにします。

